

第 5 回アフリカ開発会議横浜開催の報告について

6 月 1 日（土）から 3 日（月）、パシフィコ横浜において、「躍動するアフリカと手を携えて」を基本メッセージとし、第 5 回アフリカ開発会議が開催されました。「ともに成長する」、「身近に感じる」、「おもてなしする」を 3 つの柱とした本市の取組について、本体会議の概要とともに報告します。

1 第 5 回アフリカ開発会議 概要

(1) 日程

平成 25 年 6 月 1 日（土）～ 3 日（月）

(2) 会場

パシフィコ横浜及び周辺施設

(3) 内容

- ・ 主要テーマである「強固で持続可能な経済」、「包摂的で強靱な社会」、「平和と安定」に沿って、今後のアフリカ開発の方向性について議論が行われた。
- ・ 最終成果物として、今後のアフリカ開発の方向性を示す「横浜宣言 2013」、今後 5 年間の T I C A D プロセスの具体的取組を示すロードマップである「横浜行動計画 2013-2017」が採択された。

《写真》



(4) 会議参加者数

約 4,500 名以上

【内訳】

アフリカ 51 か国（39 名の国家元首・首脳級含む）
開発パートナー諸国及びアジア諸国 31 か国
国際機関及び地域機関 72 機関
民間セクターや NGO 等市民社会の代表

2 本市の取組概要

(1) 横浜開催の意義

ア MICE 拠点都市の推進

- ・ 安全・円滑な会議開催のための支援
- ・ 会議開催を通じた、横浜の国際的知名度向上

イ 市内経済への波及効果

- ・ 市内事業者にとってメリットとなる会議開催支援

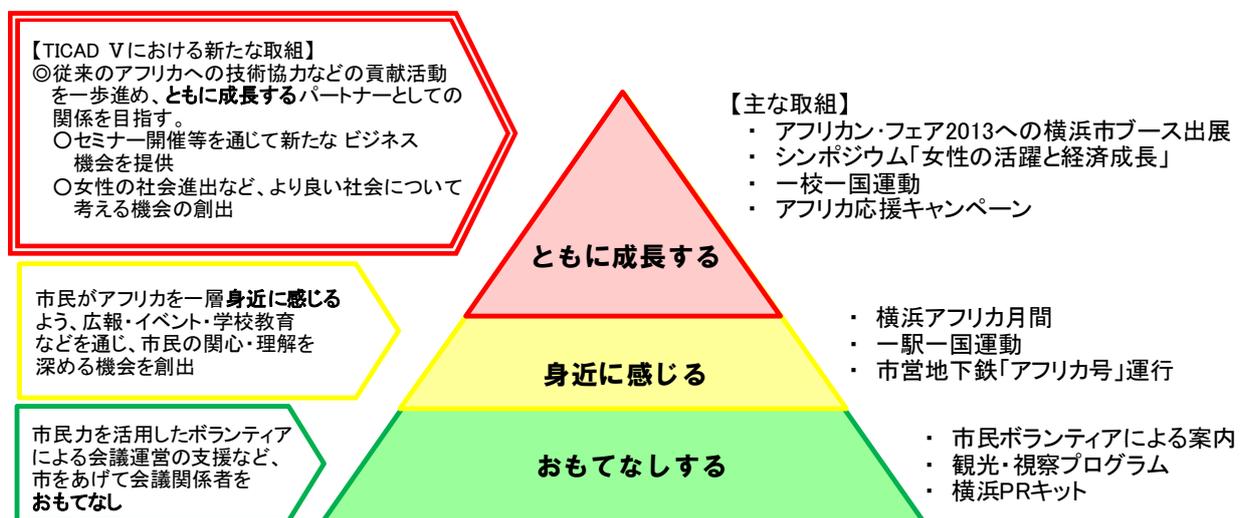
ウ 市民の多文化理解、国際貢献

- ・ 市民、特に若い世代の多文化理解の促進
- ・ 横浜市としての国際貢献の推進

(2) 取組の3つの柱

開催都市横浜としての取組テーマ

アフリカ、ともに成長するパートナーへ。



(3) 主な取組経過

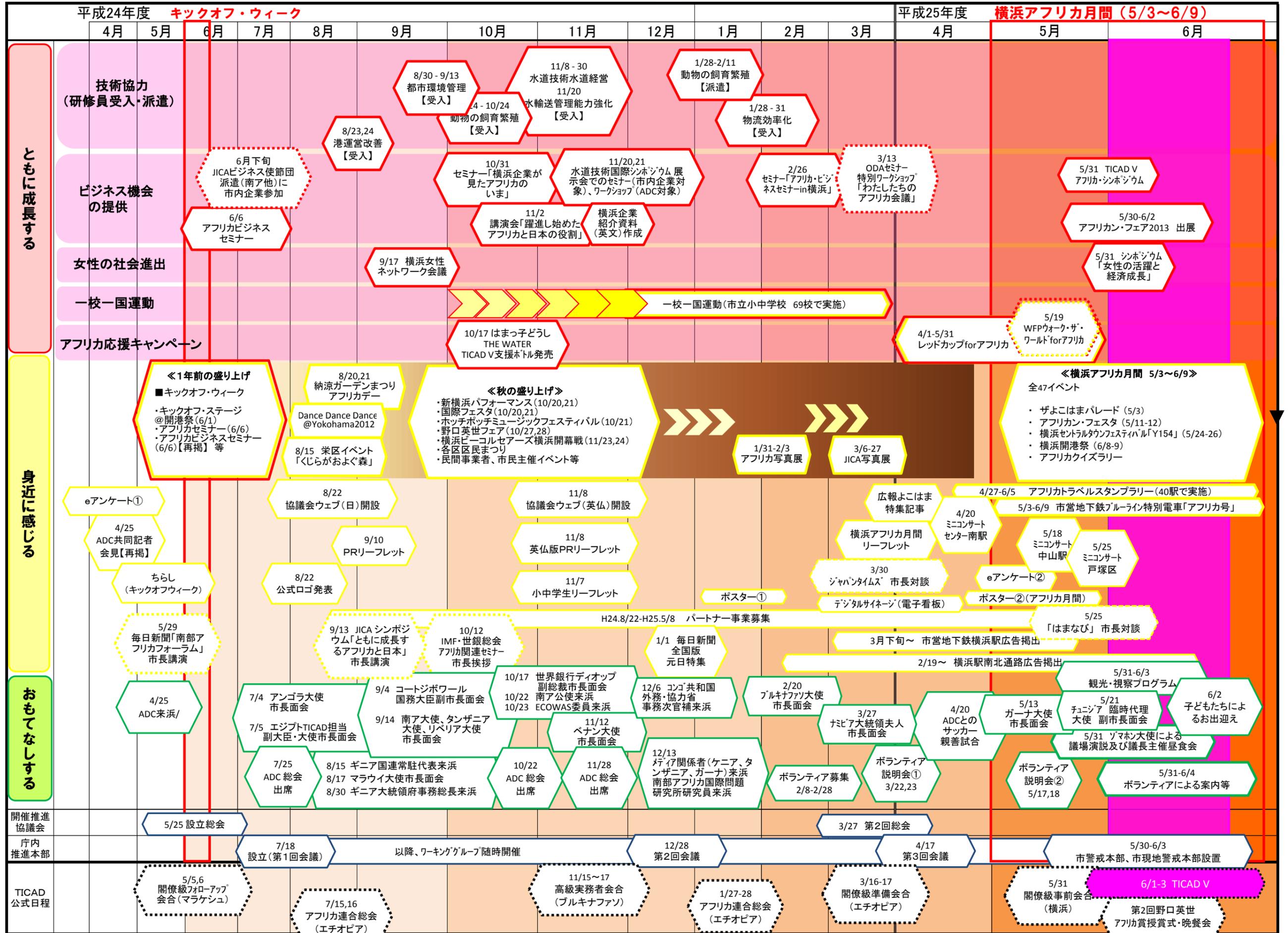
ア 誘致から開催決定まで

23年 9月	・ 市会本会議で市長が誘致を表明 ・ 市会「第5回アフリカ開発会議（TICAD V）の横浜開催を求める決議」
10月	・ 第5回アフリカ開発会議の横浜誘致を成功させる横浜市議員の会設立 ・ 第5回アフリカ開発会議横浜誘致議員連盟設立 ・ 内閣官房長官、外務大臣への要望行動（要望主体：国会議連、横浜市、神奈川県）
11月	・ 第5回アフリカ開発会議横浜誘致推進協議会設立
12月	・ 外務大臣への要望行動（要望主体：誘致推進協議会、市議員の会） ・ 内閣官房長官への要望行動（要望主体：誘致推進協議会、市議員の会）
24年 1月	・ 第5回アフリカ開発会議横浜開催決定

イ 平成24年4月から平成25年6月まで

実線：本市が主体的に取り組んだもの

点線：その他TICAD関連



ウ 前日・会期中の主な行事

	5月31日(金)		6月1日(土)		6月2日(日)		6月3日(月)	
	TICAD V議事	市主催・協力等	TICAD V議事	市主催・協力等	TICAD V議事	市主催・協力等	TICAD V議事	市主催・協力等
午前	閣僚級事前会合	TICAD V アフリカ・シンポジウム 開会式 ベナン共和国ゾマホン大使による 議場演説	【写真撮影】 【開会式】 【全体会合1】 TICAD20周年と OAU50周年 【全体会合2】 強固で持続可能な経済	WFP事務局長と市長との面 会	【テーマ別会合】 (同時並行開催) 1. 開発の原動力としての民 間セクター、貿易と投資 2. 成長のための基盤整備 3. ポストMDGsに向けて 4. ジェンダー平等と女性の エンパワメントを通じたア フリカ開発の推進 5. 平和構築の強化 ◆ 会合4において市長がシ ンポジウムの成果を発信	《配偶者プログラム》 農業視察	【全体会合6】 テーマ別会合報告・総括 【閉会式】 横浜宣言2013・横浜行動計 画2013-2017採択 【共同記者会見】	ボツワナ共和国通商産業大臣 と市長との面会 UNIDO事務局長と市長との 面会・共同声明
昼		横浜市会議長主催ベナン共 和国大統領歓迎昼食会		第2回野口英世アフリカ賞横浜 市長主催昼食会		《配偶者プログラム》 安倍総理夫人主催昼食会		
午後		シンポジウム「女性の活躍と経 済成長」 マラウイ共和国大統領と市長 との面会 アフリカン・フェア2013 セレモニー/レセプション	【全体会合3】 民間との対話	第2回野口英世アフリカ賞受賞 者歓迎式典 《配偶者プログラム》 「アフリカの女性と子供の健康 のための日本の技術紹介」 国際シンポジウム「エイズ」を考 える：アフリカと日本の共通課 題」 UN Women事務局長代行と 市長との面会	【全体会合4】 平和と安定 【全体会合5】 包摂的で強靱な社会	《配偶者プログラム》 書道パフォーマンス 《配偶者プログラム》 つまみかんざし作り	【宮中茶会】	タンザニア連合共和国大統領 来浜記念「ジャカランダ」植樹 式
夜	総理・横浜市長共催歓迎レセプション		第二回野口英世アフリカ賞 授賞式・記念晩餐会 ◆ 市長出席		TICAD公式晩餐会 (総理(議長)主催)	FAO事務局長と市長との面 会		

3 本市の主な取組内容 《(ア)実施時期 (イ)実施場所・内容等》

(1) とともに成長する

ア 技術協力

- (ア) 通年
- (イ) ・水道、港湾、動物飼育、緑地保全の4分野で継続実施。
 - ・研修員受入(24年度約60人、25年度約50人)
 - ・職員派遣(24年度7人、25年度3人(予定))



イ 一校一國運動

- (ア) 平成24年10月～平成25年3月
- (イ) ・在京大使館を有するアフリカ38か国を対象に、市立小中学校69校が参加。
 - ・対象国の文化・歴史・生活等の学習や、大使館関係者等との交流。



ウ ビジネス機会の提供

- (ア) 平成24年4月～平成25年6月
- (イ) ・TICAD V アフリカ・シンポジウム等ビジネスセミナーを開催(計7回 約850人参加)
 - ・アフリカン・フェア2013(約57,000人来場) ブース出展(約3,200人来場)。本市の技術協力や市内企業12社の製品、技術等を紹介。



エ アフリカ応援キャンペーン

◇ 「レッドカップ for アフリカ」 キャンペーン

- (ア) 平成25年4月1日(月)～5月31日(金)
- (イ) 42事業者参加、寄付金額2,814,386円(8月末現在)(10月末を目途に集計中)

◇ WFP ウォーク・ザ・ワールド for アフリカ

- (ア) 平成25年5月19日(日)
- (イ) 3,593人参加、募金額3,510,568円

◇ 「はまっ子どうし THE WATER」 TICADV 支援ボトル

- (ア) 平成24年10月～平成25年6月
- (イ) 寄付金額は9月末を目途に集計中



オ 女性の活躍と経済成長

- (ア) 平成25年5月31日(金)
- (イ) ・パシフィコ横浜アネックスホール
 - ・バンダ マラウイ共和国大統領の記念講演及びパネルディスカッション。
 - ・シンポジウムでの議論内容を6月2日の「テーマ別会合」で林市長が報告。



(2) 身近に感じる

ア 第5回アフリカ開発会議キックオフ・ウィーク

- (ア) 平成24年6月1日(金)～9日(土)
- (イ) ・「横浜開催1年前セレモニー@横浜開港祭2012」(H24.6/1～6/2)、
「アフリカ理解セミナー」・「アフリカビジネスセミナー」(H25.6/6)等。



横浜開催1年前セレモニー@横浜開港祭2012

イ 秋のイベントとの連携

- (ア) 平成24年秋
- (イ) ・「新横浜パフォーマンス」(H24.10/20～21)、
「よこはま国際フェスタ2012」(H24.10/20～21)、
「ホッポ ッチミュージックフェスティバル」(H24.10/21)、
「野口英世フェア」(H24.10/27～28)等。



新横浜パフォーマンスでのキーワードラリー

ウ 各区でのイベント

- (ア) 通年
- (イ) ・中区「中区民まつり・ハーよこはま2012」、
金沢区「アフリカスマイルフェスタ in かなざわ」、
都筑区「アフリカの人を知ろう～ホッポの未来を担う～」、
戸塚区「アフリカ月間 in とつか」、
瀬谷区「総合庁舎・二ツ橋公園グランドオープンイベント」等



各区での盛り上げ
：鶴見区「留学生と市民の井戸端フォーラム2013「考えよう！アフリカの水」」

エ 一駅一国運動

◇ アフリカトラベル スタンプラリー

- (ア) 平成25年4月27日(土)～6月5日(水)
- (イ) ・市営地下鉄全40駅の各国紹介コーナーで実施(22,442人参加)。

◇ 特別電車「アフリカ号」

- (ア) 平成25年5月3日(金・祝)～6月9日(日)
- (イ) ・市営地下鉄ブルーライン

◇ ミニコンサート

- (ア) 平成25年4月20日、5月18日、25日
- (イ) ・センター南駅、中山駅、戸塚区総合庁舎内区民広間(計1,100人参加)



一駅一国運動
：中山駅でのミニコンサート

オ 横浜アフリカ月間

- (ア) 平成25年5月3日(金)～6月9日(日)
- (イ) ・ザよこはまパレードを皮切りに横浜開港祭まで、市内各所で開催されるアフリカ関連イベントを一体的にPR(全47イベント)。



横浜アフリカ月間 リーフレット

カ アフリカン・フェスタ 2013

- (ア) 平成 25 年 5 月 11 日（土）～12 日（日）
- (イ) ・横浜赤レンガ倉庫（約 15 万人来場）
・浦島丘中学校（神奈川区）吹奏楽部のステージや一校一国運動の活動発表などを実施。
・横浜市ブースを出展し、ズーラシア「アフリカのサバンナ」等を紹介。



アフリカン・フェスタ 2013

キ 第 2 回野口英世アフリカ賞受賞者の歓迎

◇ 市長主催昼食会

- (ア) 平成 25 年 6 月 1 日（土）
- (イ) ・市長公舎

◇ 受賞者歓迎式典

- (ア) 平成 25 年 6 月 1 日（土）
- (イ) ・金沢区 長浜ホール
・一校一国運動のガーナ及びウガンダの交流校（立野小、浦島小、文庫小）による合唱メドレー披露等。



野口英世アフリカ賞受賞者歓迎式典

ク タンザニア連合共和国大統領来浜記念「ジャカラнда植樹式」

- (ア) 平成 25 年 6 月 3 日（月）
- (イ) ・よこはま動物園ズーラシア
・キクウェテ大統領来浜を記念し、ジャカラндаを植樹。



ジャカラнда植樹式

ケ 様々な広報・PR

- (ア) 通年
- (イ) ・広報よこはま、新聞広告、ポスター、リーフレット（日/英/仏）、ウェブサイト（日/英/仏）などを活用した広報を展開。
・仏語雑誌（2 誌）、ケニア国営 TV 等、海外メディアによる市長インタビューを受け、アフリカ各国とのつながりなどを紹介。



仏語雑誌

コ 第 5 回アフリカ開発会議パートナー事業

- (ア) 平成 24 年 8 月 22 日～25 年 5 月 8 日受付分
- (イ) ・TICAD V 共催者である日本政府、国連開発計画（UNDP）、世界銀行とともに、日本国内の盛り上げを図るため、パートナー事業を募集し、広報面で支援（認定事業 157 件）。
・認定事業には TICAD V ロゴの使用を許可。



TICAD V ロゴ

(3) おもてなしする

ア 在京アフリカ外交団とのサッカー親善試合

- (ア) 平成 25 年 4 月 20 日 (土)
- (イ) ・日産スタジアム
- ・横浜市議員フットボールクラブと在京アフリカ外交団 (ADC) とのサッカー親善試合 (市議員 36 人、ADC 48 人参加)。
- ・試合終了後、意見交換会を開催。



ADC とのサッカー親善試合

イ 街の歓迎装飾

- (ア) 平成 25 年 5 月 7 日 (火) ～ 6 月 3 日 (月)
- (イ) ・会場及び市庁舎周辺
- ・バナーフラッグ、横断幕、大懸垂幕、交通局所有バス車両 840 台へのバスマスク掲出。



クインモール大懸垂幕／バスマスク

ウ 議場演説及び昼食会

◇ ゾマホン大使による議場演説

- (ア) 平成 25 年 5 月 31 日 (金)
- (イ) ・市会本会議場
- ・ゾマホン駐日ベナン共和国特命全権大使の演説 (ヤイ大統領のメッセージを代読)。



ゾマホン大使による議場演説

◇ 議長主催昼食会

- (ア) 平成 25 年 5 月 31 日 (金)
- (イ) ・ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル
- ・ヤイ大統領をお迎えし開催。

エ 総理・横浜市長共催歓迎レセプション

- (ア) 平成 25 年 5 月 31 日 (金)
- (イ) ・横浜ロイヤルパークホテル
- ・内閣総理大臣と市長の共催により、TICAD V 参加国・機関代表者を招待 (約 700 人参加)。



総理・横浜市長共催歓迎レセプション

オ 配偶者プログラムへの協力

- (ア) 平成 25 年 6 月 1 日 (土)、2 日 (日)
- (イ) ・安倍昭恵内閣総理大臣夫人主催による、アフリカ各国首席代表配偶者等を対象としたプログラム。
- ・本市は開催都市として運営等を支援。



配偶者プログラム：都筑区での農業視察

カ 観光・視察プログラム

- (ア) 平成 25 年 5 月 31 日 (金) ～ 6 月 3 日 (月)
- (イ) ・会議関係者を対象に、視察ツアーや観光施設等の無料チケット配布を実施
(視察ツアー11人参加、観光プログラム12人参加、チケットのべ69人利用)。



観光・視察プログラム リーフレット

キ 横浜PRキット

- (ア) 平成 25 年 5 月 28 日 (火) ～ 6 月 3 日 (月)
- (イ) ・横浜 PR DVD、レストランガイド、観光・視察プログラム リーフレットなどを風呂敷に包み、配布 (約 3,000 セット)。



横浜PRキット

ク 市民ボランティアによるおもてなし

- (ア) 平成 25 年 5 月 31 日 (金) ～ 6 月 4 日 (火)
- (イ) ・活動人数：83 人 (のべ 176 人)
- ・インフォメーションデスク：ホテル等 6 か所
 - ・誘導案内：JR 桜木町駅改札等 5 か所



市民ボランティア活動
：ホテル内インフォメーションデスク

ケ 子どもたちによる各国首脳のお出迎え

- (ア) 平成 25 年 6 月 2 日 (日)
- (イ) ・全体会合に参加するアフリカ各国首脳を約 100 名の子どもたちが各国国旗などでお出迎え。



子どもたちによる各国首脳のお出迎え

コ 会議参加者との個別会談

- ・マラウイ共和国大統領 (H25. 5/31)
- ・WFP 事務局長 (H25. 6/1)
- ・UN Women 事務局長代行 (H25. 6/1)
- ・FAO 事務局長 (H25. 6/2)
- ・ボツワナ共和国通商産業大臣 (H25. 6/3)
- ・UNIDO 事務局長 (H25. 6/3)



マラウイ共和国大統領と市長との面会

(4) 安全・円滑な会議開催支援

ア 市警戒本部会議の開催

- (ア) 平成 25 年 4 月 8 日（月）、5 月 24 日（金）
- (イ) ・警備計画の策定等



イ 警戒体制の強化（全区局）

- (ア) 平成 25 年 4 月 9 日（火）～6 月 3 日（月）
- (イ) ・所管施設の施錠や巡回などの安全確保、公用車の盗難防止など、警戒体制を強化。

ウ テロ対策訓練の実施

- (ア) 平成 25 年 5 月 8 日（水）
- (イ) ・パシフィコ横浜南口広場及び前面海域
・テロ事案発生時の対応要領の確認及び関係機関との連携を強化し、危機対策の万全を期することを目的とした訓練（154 名参加）



エ 市警戒本部体制の確立

- (ア) 平成 25 年 5 月 30 日（木）～6 月 3 日（月）
- (イ) ・横浜市警戒本部（本部長：危機管理監、市庁舎危機管理センター本部）、
現地警戒本部（展示ホール）、
現地医療本部（会議センター）、
消防特別警備本部（保土ケ谷・消防本部）、
消防特別警備現地本部（展示ホール）。



オ 交通規制の広報

- (ア) 平成 25 年 4 月 25 日（木）～6 月 3 日（月）
- (イ) ・交通規制や検問に関する広報
（横断幕 26 枚、立看板 30 枚の設置など）。



4 本市の取組に関する総括

(1) 全体像について

- 第5回アフリカ開発会議は、市会をはじめ地元関係者の皆様の御協力を得て、横浜誘致が実現した。横浜開催決定以降、本市は、MICE 拠点都市として会議の安全・円滑な開催を支援し、アフリカとともに成長するための様々な取組を進めた。
- 今回、本市が掲げた「アフリカ、ともに成長するパートナーへ。」というテーマは、非常にタイムリーなものとして受け取られ、今後のアフリカ交流を方向づけるものとなった。
- 会議終了後の日本政府やアフリカ各国からの、開催都市・横浜に対する高い評価は、本市の大型国際コンベンション開催支援能力の高さを改めて示すものであり、今後のMICE 誘致に向けての大きな成果である。

ア MICE 拠点都市の推進	
安全・円滑な会議開催のための支援	<ul style="list-style-type: none"> ● 神奈川県警等と連携し、開催都市として、会議が安全かつ円滑に開催できる環境を整えた。無事に会議は終了し、会議主催者である日本政府及びアフリカ各国から、高い評価を受けた (P. 16 参照)。
会議開催を通じた横浜の知名度向上	<ul style="list-style-type: none"> ● 開催地として、YOKOHAMA の地名が数多くの海外メディアで取り上げられた。また、会期中に英語でのプレスリリースに努めたほか、アフリカや欧米で発行される仏語雑誌、ケニア国营テレビ等の取材を受け、海外での報道につながった。 ● 国内メディアだけでも、100 億円を超える広告価値換算額が計測されており (P. 17 参照)、横浜の知名度向上につながったものと考えられる。
イ 市内経済への波及効果	
市内事業者にとってメリットとなる会議開催支援	<ul style="list-style-type: none"> ● パシフィコ横浜で開催された公式サイドイベントやアフリカン・フェア 2013 は一般入場が可能だったこともあり、会期中も会場周辺で来街者や会議参加者が多数見受けられた。 ● 約 40% の市内ホテルにおいて、前年同時期と比較し、宿泊客数が増加した (P. 15 参照)。 ● 市内中小企業への発注実績 (24年度) : 103/112件 (92.0%)、16,103千円 (文化観光局アフリカ開発会議担当分。単独随意契約及び大規模契約を除く。)
ウ 市民の多文化理解、国際貢献	
市民、特に若い世代の多文化理解の促進	<ul style="list-style-type: none"> ● 横浜アフリカ月間、一駅一国運動など、市民の皆様にあフリカを一層身近に感じていただく機会となった。特に、一校一国運動は、アフリカと横浜の子ども同士の交流が複数の学校で実現し、多文化理解、国際交流が推進された。
横浜市としての国際貢献の推進	<ul style="list-style-type: none"> ● 技術協力、アフリカ応援キャンペーンを通じた支援など、市をあげた国際貢献の機会となった。

(2) 取組の3つの柱について

ア ともに成長する

- 一校一国運動では、横浜とアフリカ双方の若い世代が世界に目を向けるきっかけとなり、教育や人材育成の面でも貢献できた。
- アフリカと対等な立場での交流を目指し、特に、市内企業へのビジネス機会の提供及び女性の社会進出の促進に重点を置いて取り組んだ。今回の成果を踏まえ、これらの分野における、横浜とアフリカのさらなる関係強化を図っていく。
- アフリカは目覚ましい経済成長を遂げている一方、貧困や格差といった課題が依然として残されている。本市が継続してきた技術協力をはじめとする貢献は今後も着実に進めていくことが重要である。

◇ 一校一国運動

- 前回より参加校が増えた。また、新たに中学校が参加したことにより、生徒による自主的な活動が多く見られ、学習の幅が広がった。
- 大型絵画の共同制作やスカイプを利用した交流授業など、子ども同士の交流が複数の学校で実現し、多文化理解・国際交流が推進された。

◇ ビジネス機会の提供

- アフリカン・フェア 2013 での本市ブース出展企業から「アフリカ関係者と直接話せる貴重な機会だった」との声があり、商談に至るケースもあった。
- ビジネスセミナーは毎回定員を超える申込があり、参加者からは「発展するアフリカ情勢に驚き、大変参考になった」、「アフリカへの見方を 180 度変える機会となった」などの感想があり、アフリカのビジネス環境を知っていただくことができた。

◇ 女性の社会進出

- アフリカと日本の経済成長における女性の果たす役割が再確認され、本体会議のテーマ別会合において、市長が議論の結果を報告する機会を得られた。
- TICAD V の成果文書である「横浜行動計画 2013-2017」には、日本政府としてアフリカ女性の起業を支援することが明記され、本市としても積極的に連携していく。

イ 身近に感じる

- テーマ「アフリカ、ともに成長するパートナーへ。」のもと、広報デザインの統一や、デジタルメディアなど多様な媒体の活用などを念頭に置き、効果的な広報を展開した。
- 全市的な周知を図るため、全区で関連イベントを実施した。
- これらの取組の結果、市民の TICAD に対する認知度が向上した。

◇ 広報

- 会議本体の方向性を反映し、早い段階で、本市としてのテーマを「アフリカ、ともに成長するパートナーへ。」に決定し、国に先駆けて広報に活用した。その結果、本市だけでなく、各方面で「ともに成長する」、「パートナー」というフレーズが使われた。
- デザイン・色調を統一した広報媒体、Facebook（フェイスブック）や Twitter（ツイッター）といった SNS の活用、外務省・JICA 等との連携により、効果的な広報を展開した。その結果、会議開催の約 1 年前は約 20%に過ぎなかった市民の TICAD に対する認知度は、会議直前には約 76%まで向上した（P. 15 参照）。

◇ イベント

- 地域での盛り上げを図るため、区役所に働きかけ、全区で関連イベントが実施された。
- 外務省、国連開発計画（UNDP）、世界銀行及び横浜市が窓口となり、民間等の取組を広報で支援する「TICAD V パートナー事業」認定制度を設けた結果、多様な主体によるイベントが全国規模で開催され、会議の盛り上げを効果的に図ることができた。

◇ 一駅一国運動

- 駅での展示物やコンサートだけでなく、今回新たにスタンプラリーを実施し、市民の方々に興味を持って参加いただくことができた。

ウ おもてなしする

- ▶ 横浜の清潔で美しい街並み、子どもたちによる温かな歓迎、経験豊富な市民ボランティアによる案内など、横浜ならではのおもてなしが、日本政府やアフリカ各国から高く評価された。
- ▶ 一方、観光・視察プログラムのあり方や会議参加者のニーズに沿った情報提供については、今後、会議参加者の時間的余裕や興味・関心の動向に検討の余地がある。

◇ 横浜の街並み

- 横浜の清潔で美しい街並みに対する高い評価が、参加者から外務省に寄せられた(P. 16 参照)。
- みなとみらい 21 地区の景観や会議施設の立地に加え、地元団体による事前清掃など、市民と行政が連携した美化活動もその一因と思われる。

◇ 市民によるおもてなし

- 長浜ホールにおける野口賞受賞者歓迎式典、会議センター入口でのお出迎えなど、子どもたちによる歓迎は、会議参加者に大変好評であった。
- 配偶者プログラムでは、高校生がコーラスに合わせて書道パフォーマンスを披露し、参加者に大変喜ばれた。
- ボランティアには、2002 年ワールドカップなどの経験が豊富な市民も多数おり、こうした市民力を発揮したおもてなしは横浜の大きな強みである。今後も市民との協働によるおもてなしを進めていく。

◇ 観光・視察プログラム

- 日時指定型ツアーの数を限定し、自由な時間に観光施設等に入場できるチケット方式を中心としたことにより、大幅にコスト削減しながら、前回会議とほぼ同数の参加者を得られた。
- 会議参加者は、観光・視察プログラムに「行きたいけれど、時間がない」というのが実態であり、参加者の限られた時間の中でのプログラムのあり方、プログラムに参加していただくための取組など、工夫の余地が残された。

◇ ニーズに沿った情報提供

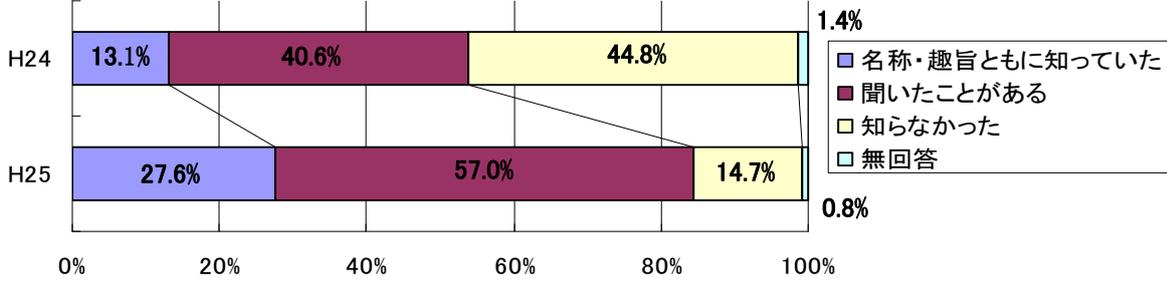
- 横浜PRキットには、外国語対応やベジタリアン対応等が可能なレストランを記載したガイドマップを入れるとともに、前回よりも配布物を厳選し、参加者にとってすぐに役立つキットにした。
- 紳士服や家電の量販店を利用した参加者が多数見られた。今後、より参加者のニーズに沿った情報の内容や提供方法について検討が必要である。

参考：各種データ

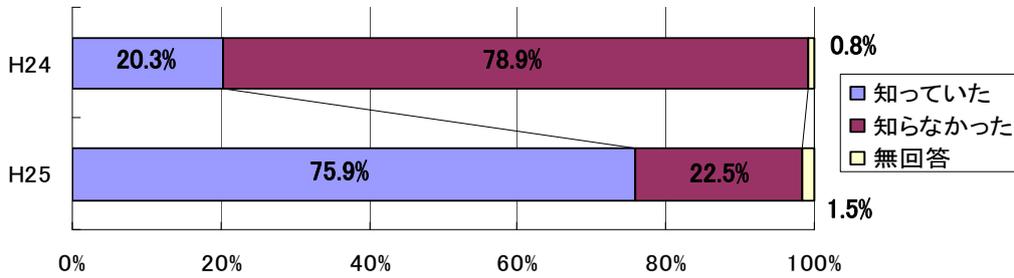
1 ヨコハマ e アンケートの結果

第1回実施	平成24年4月6日-20日	回答者数 640人/1,358人	回答率 47.1%
第2回実施	平成25年5月17日-31日	回答者数 790人/1,789人	回答率 44.2%

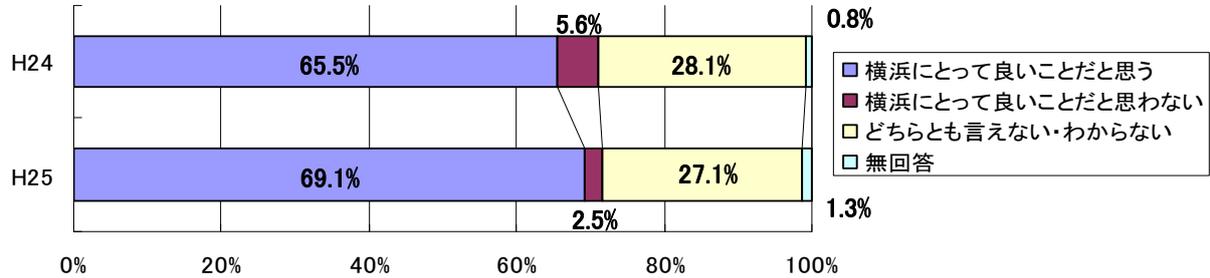
アフリカ開発会議(TICAD)はどのような会議かご存知ですか



TICAD Vが横浜で開催されることをご存知ですか



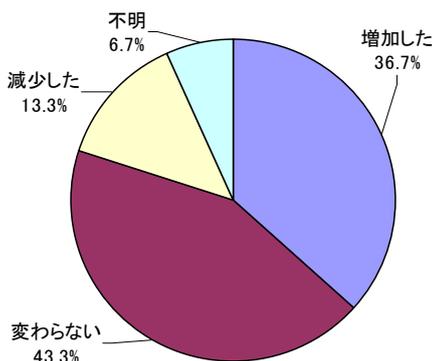
TICAD V 横浜開催をどのように思いますか



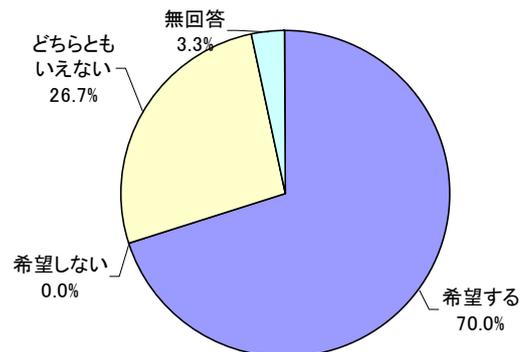
2 市内ホテルへのアンケート結果

回答数 30/35 ホテル 回答率 85.7%

前年同時期(5/30~6/4)と比較した
宿泊客数の増減



TICAD Vのように首脳級が多く参加する
大型国際会議の今後の横浜開催について



3 市民ボランティアの案内実績（内容別内訳）

案内内容	件数（件）
会議・関連イベント	1,090
会議に関連しない施設・場所等	157
観光・レストラン・ショッピング	91
ホテル等施設内	43
その他	50
合 計	1,431

4 関係者からのコメント

在京アフリカ外交団（ADC） 団長

- みなとみらい地区におけるTICAD V開催のための環境整備、横浜市民の温かく親切なおもてなし、そして多くの関連イベントへの市民の積極的な参加と支援が、会議の成功の大きな要因である。
- 横浜で開催されたTICAD Vが、日本とアフリカの関係をより強固で相互に有益とする礎を築き、戦略的パートナーシップを目指す過程で節目となる会議として、皆の記憶に残るものと確信している。

参加国・国際機関関係者

- 横浜はとても綺麗な町で、我々は温かく迎えられた。
- 全ての行事がきちんと始まり、また横浜の街並みも美しく、このようにきちんと整理された人々、街並みに触れ、日本との協力が不可欠と感じた。
- 横浜は会議インフラが近距離にあり、渋滞もなく会議開催地として適している。
- 横浜の街全体で TICAD を成功させようという意気込みが感じられ、一般市民からも温かいサポートが得られていた。
- ボランティアの方々も親切で、会議参加者はいつでもサポートを受けられる環境にあった。
- 一校一国運動はよかった。生徒たちは、実によく勉強していた。
- 外務省をはじめとした省庁のみならず、横浜市が市長を中心に積極的に関与したことも会議の成功に大きく寄与したと考える。

外務省幹部

- 横浜では2回目の開催となり、横浜市の開催支援の取組や市民のホスピタリティがすばらしかった。特に、会議場入口で、小学生が旗を振っての歓迎はとても良かった。
- 国連やアフリカ連合でも、女性やジェンダーをテーマとして取り上げている。サイドイベントとして横浜市で「女性の活躍と経済成長」というシンポジウムを開催いただいたことは、まさに時流に乗っていてタイミングが良かった。

5 パブリシティ効果

第5回アフリカ開発会議横浜開催にかかる、国内のメディア露出による広告価値換算額は、11,434百万円と計測された。

調査対象期間：	平成24年2月1日～平成25年6月30日
調査対象媒体：	新聞・ウェブ・TV・CATV・ラジオ・雑誌
露出件数：	2,388件
広告価値換算額：	11,434百万円（税込）

※ 検索キーワードは「第5回アフリカ開発会議（TICAD V）」と「横浜」

※ 広告価値換算額内訳

媒体種類	A H24. 2. 1～H25. 3. 31		B H25. 4. 1～H25. 6. 30		A+B H24. 2. 1～H25. 6. 30	
	件数 (件)	広告価値換算額 (税込・百万円)	件数 (件)	広告価値換算額 (税込・百万円)	件数 (件)	広告価値換算額 (税込・百万円)
新聞	66	171	1,292	2,189	1,358	2,360
ウェブ	1	0	728	779	729	779
テレビ	7	389	219	7,833	226	8,222
CATV	17	8	32	18	49	26
ラジオ	2	9	10	35	12	44
雑誌	-	-	14	3	14	3
合計	93	577	2,295	10,857	2,388	11,434

6 経済波及効果

JNTO（日本政府観光局）が会員向けに公開している、国際会議の経済波及効果の簡易測定システムで、参加者数等のデータを用いて試算すると、本市への経済波及効果は、単年度で2,150百万円と推計される（TICAD IVは1,570百万円）。